

医学部予備校を関東に展開強化

富士学院

坂本 友寛 学院長



「ビジネス思考に走りがちな教育業界を変え、教え育むという教育の原点に戻していきたい」と話すのは医学部受験の予備校を経営している 富士学院（福岡市博多区博多駅南3丁目）の坂本友寛学院長。福岡校を平成7年に開校し現在は岡山、名古屋、鹿児島、小倉、東京の6校を直営で運営している。直営にこだわる理由は、F・Cになると経営者が異なり、指導理念の共有が図りづらくなるため。

年々顕著に合格者数を伸ばしている富士学院の特徴について

坂本学院長は「生徒自身が自ら勉強に向かう『自覚』と『自立』を促す学習環境がある点と講師が自身の専門科目以外にも目を向け、チーム体制を取り、生徒の学習戦略を共有している点」にあると話し、「個人指導と1クラス8人以下の少人数制クラス授業で、大手予備校や映像授業などの一方的な授業などで陥りやすい『分かった気になる』を防止。生徒にただ勉強を教えるだけではなく、今、何の為に勉強を頑張っているのかなど将来医師になるという自覚を促す教育に力を入れている」と続けた。開校から1年が経った東京校、小倉校も目標以上の結果を出しており、東京校からは京都大学医学部の合格者も輩出し、好調な動きを見せる同校。今後について坂本学院長は「まずは生徒がいっぱいの岡山、名古屋の校舎の拡大を図りながら、東京にはもう1校今年秋ごろの開校を目指し、その後は横浜、仙台での展開も視野に入れている」と意気込む。6月には幻冬舎から『難関医学部「合格力」の鍛え方』という本も出版予定だ。